



今回は若者とインドネシア人漁師と手作りカヌーで大海原に挑 戦。星を頼りに航海する、グレートジャーニー関野吉晴さんたちの 姿に手に汗握り、最後は拍手を送り、脱帽した。

- 北野 武 (映画監督・タレント)

関野さんは、読書しているような目で冒険をやってくれる。今度の 旅は、海と人間に聴診器をあてているような顔だった。

-- 糸井 重里 (コピーライター)

とっても不思議な映画です。 3・11 の震災をはさんで、冒険の記録 ではなく、命のつながりの深淵へと入っていきます。人間の意識は 大自然と響きあっているのかなあ。関野吉晴さんが始めた航海 の意味が……3年を経てやっと明らかにされました。ぜひ、若い人 たちに観てほしいです。

一田ロランディ(作家)

壮大な自然の中で、自らの命を燃やす男達に惚れ込んでしまった。 何故こんな無謀なことをするのか。この映画は無謀な挑戦の単なる 記録ではない。"現代社会の暮らしの中でスッポリと抜け落ちてしま った大事な何か"が濃密に描かれているのかもしれない。

- 社会科学部3年

好奇心に満ちた彼らの姿はまさにAdventurer。次々と立ちはだか る試練を前に、彼らの壮大な旅は続く。こんなノンフィクション超大 作、今まで見たことなかった。

一 法学部1年

自然調和した人間の営みの中で、人と人との関係や、死生観を見つ めなおすきっかけとなるような作品だ。自然と乖離されつつある現代 の私たちの生き方を、捉えなおすことができる作品なのではないだ ろうか。

二文化構想学部3年

フィクションよりもドラマチックな旅の記録

『グレートジャーニー』の探検家 関野吉晴が企画した途方もない旅…。それは「自然から素材を集 めて鉄器を作り、その鉄器で船を作り、エンジンを使わずに島影と星だけを頼りにインドネシアから 日本まで来る」というもの。関野の教え子である武蔵野美術大学の学生たちも参加し、船を作り上 げるが、逆風では進む事ができないという欠陥を抱えていた。進まないときは歩くよりも遅く、 停滞に停滞を重ねる船。価値観も宗教も年齢もバラバラの11人のクルー達は圧倒的な自然の 力に翻弄されながら喜び、怒り、哀しみを分かち合いながら進む。そして3.11の東日本大震災の大 災害を経て、旅は新たな意味を持ち始める。2010年に初上映された『僕らのカヌーができるまで』 に描かれた造船から、その後の航海まですべての冒険を見つめた完結編。

http://jomon-pakur.info/ 助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 映像協力: 常江大方成 大船渡津波伝承館













探桳家•医師• 武蔵野美術大学 教授 関野吉晴

1949年生まれ。1999年植村直己 足跡を辿る旅と、日本列島にやって きた人々の足跡を辿る旅の、新旧 グレートジャーニーを成し遂げる。 2013年には国立科学博物館『グレー トジャーニー展』の監修も務める。 今回は自作の船で、星と島影だけを 頼りに4700kmの航海に挑む。本 作の企画・制作・出演。



上映後には、監督とクルーによ 前代未聞の冒険の裏話を聞くチ

参加ご希望の方は こちらのフォームへのご記入お願いします。

URL http://goo.gl/forms/RbdCgXrykU